

平成 30 年春期 釜利谷地区推進連絡会

- 1 日時
平成 30 年 3 月 30 日（金） 17:00～19:00
 - 2 場所
釜利谷地区センター
 - 3 参加者 55 名
(地域側) 自治会等地域団体関係 25 名
学校関係 (釜利谷小、釜利谷中) 2 名
(支援チーム、その他行政側)
区役所 13 名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 12 名
消防 1 名
 - 4 第 3 期釜利谷地区地域福祉保健計画の平成 29 年度振り返り
 - 5 意見交換
 - (1) テーマ
障がい児者の暮らしのために
 - (2) 取組発表
 - ①支援団体「カモミール」 久保様
 - ②支援施設「航」 小川様
 - (3) グループごとの意見交換
地域の方々と支援チームが 6 グループに分かれ、「取組発表を聞いて、①自分たちにできること ②地域で取り組みたいこと ③感想」などを述べ合いました。
各グループの意見交換の様子を見て回られた久保様、小川様からは、「障がい児の親は、周囲にどういう目で見られるか、不安を感じている。気軽に声をかけてもらえればありがたい。」「皆の日常生活の中に障がい者がいることが普通になっていければ。お互いに声をかけあえる関係を築くためには、地域の方が入ってきやすいオープンな場づくりが必要と感じた。」といった感想が寄せられました。
- 【各グループの主なご意見】**
- あいさつを重ねるうちに知り合いになれる。あいさつから始めようと思う。
 - 町内会で取り組めることで思いつくのは、「あいさつ」「夏祭り等への参加呼びかけ」など。自然体でやるのがよい。

- 障がい児・者に関わる機会が少ない。理解が進んでいない。
- 「障がい」と言っても幅広く、一人ひとり違う。まずは少しずつ知っていこう。
- 気にはなりつつも、どう接していいのかわからない。
- 支え合うためには情報が必要だが、個人情報の問題や、外部の関わりを好まない家庭もあり難しい。
- （障がいのある方に）町内会の行事にぜひ参加してほしい。また、情報発信もしてほしい。
- 施設だけでなく、地域の中に（障がい者が出来ることを）体験できるような場があっても良いのでは。
- 障がいのある人もそうでない人も、普通に生活できるような地域にしていけないといけない。